

平成27年度第2回ICT利用教育改善研究発表会運営委員会
議事概要

I. 日時 平成28年1月23日(土) 13:30~16:00
場所 私立大学情報教育協会 事務局

II. 出席者 宮川担当理事、東村委員長、尾崎副委員長、山中委員、大島委員、
渡辺委員(ネット参加)、田中委員 (事務局 井端、平田)

III. 検討事項

今回は主に、平成28年度発表会の発表募集要項の見直しと今後の方針、スケジュールについて確認した。

1. 発表募集の案内

(1) 発表募集要項

平成27年度発表内容を振り返ると、アクティブ・ラーニングの取り組みはまだ十分ではないことから、アクティブ・ラーニングの取り組みを対象としていることを強調するため、冒頭説明の第2段落目「アクティブ・ラーニング(能動的学修)※1、双方向型授業、反転授業、PBL※2、TBL※3、教室外の事前・事後学修※4、協調・協働学修などの取り組みで、教育改善効果が見られるものを推奨します。」の「推奨します」は「限定します」に修正することにした。また、各アクティブ・ラーニングの用語説明の注記は、Web上ではページの最後に掲載されていたが、申込者がイメージしやすいよう、本説明の直下に移動することにした。

(2) 発表申込

申込者にアクティブ・ラーニングの取り組みを対象とした発表会であることと、アクティブ・ラーニングを具体的にイメージできるよう、発表申込の項目や設問を下記の通り大幅に修正した。

① 「教育・学修方法」の選択項目「アクティブ・ラーニング(能動的学修)、双方向的授業、反転授業、PBL、TBL、教室外の事前・事後学修、協調・協働学修」については、アクティブ・ラーニングのイメージが申込者に理解しやすいよう、項目名を「アクティブ・ラーニング(能動的学修)を展開するための取り組み」に修正した上で、選択項目を以下の通りとし、それぞれに、例示もつける。

○双方向型授業

多人数授業における教員・学生間のコミュニケーション
教室外での学生同士のピア・レビュー
地域・社会との連携授業における地域・社会からの意見・助言 など

○反転授業

予習と授業での対話による知識の定着

○PBL

問題を発見させるためのチーム学修、または問題解決を図るための実践型・体験型学修

○TBL

予習内容をチームで議論することで能力向上を図るチーム基盤型学修

○教室外の事前・事後学修

学修意欲の向上を目指した工夫

○協調・協働学修

調べ学修などの予習とチーム内発表、異分野の学生や留学生を組み合わせたチーム学修など

○その他

(自由記述)

② 「本発表と教育目標との関連」については、発表と学部・学科などの教育目標およびシラ

バスで明記されている教育目標との関連を記述するものであったが、発表抄録等で説明してもらいようにし、申込項目からは削除する。

- ③ 「発表内容」のうち「問題の所在」の項目は削除し、「教育改善の目的・目標」の項目で記述するよう、「(問題の所在、研究の目的・目標について、簡潔にお書き下さい)」と説明に追加するとともに、「問題の所在(例)：基礎学力の低下、主体性・学修意欲の低下、出席率の低下」など、問題の所在が何であるかわかりやすいよう例示を追加する。「教育改善内容と方法」では、「(ICTを利用して問題をどのように改善しようとしたのか、その経緯をお書き下さい)」として、「その経緯を」を追加し、記述すべき内容を明確にするとともに、「改善内容・方法のイメージ(例)：eポートフォリオによる学修行動のモニタリング、LMS上のフィードバック機能による学修指導、など」の例示も追加する。「教育実践による改善効果」は「教育実践による教育効果」に修正し、「(実践による教育効果とエビデンスを示して下さい。)」と説明を入れた後に、「エビデンスは、例えば以下のようなもので示して下さい。」として「エビデンスの参考例：受講生のアンケート集計結果、大学の公式授業アンケートまたは独自の授業アンケートでの自由記述集計結果、国家試験等の合格者数の伸び、期末テスト等の経年比較、プリ・ポストテストの結果、LMSデータ等の分析、大学での公式授業アンケート結果など」を追加し、教育効果の具体例を明示する。
- ④ 「教育改善効果の確認方法について」は上記③の教育効果で記述するため、この項目は削除する。

(3) 発表募集時期

以下のとおり発表募集に関するスケジュールを確認した。

- ① メール案内は、2月中旬から開始し、会員代表者、サイバーFD 研究者(教員個人)、過去の発表会・大会の発表者および参加者宛に送付する。
- ② 紙媒体の郵送は加盟校、非加盟校宛に3月下旬に行う。

2. 論文見本、発表抄録見本の見直し

上記の発表申込に合せて、論文や発表抄録で記述すべき内容も修正する必要があるため、論文の発表抄録の見本を以下のとおり修正した。

(1) 論文の見本

- ① 「1. はじめに」は削除し、「1. 教育改善の目的・目標」に修正し、教育上の問題点、ICT 利用による教育改善の目的・目標、発表と学部学科などの教育目標、およびシラバスで明記されている教育目標との関連を記述するよう説明を入れる。
- ② 「2. 教育改善の内容と方法」は「2. 授業概要と教育改善の内容」に修正し、授業概要と改善内容(改善の経緯と内容)を記述するよう説明を入れる。
- ③ 「3. 教育実践による改善効果とその確認」は<量的分析の検定結果等から>の例示のうち、教員独自のアンケート結果、分散分析の検定結果、重回帰モデル、各種の多変量解析モデル、各種の多変量解析モデル、<その他>の創意工夫した独自の評価法、などから向上が見られた旨の例示は削除する。

(2) 発表抄録の見本

上記の論文の見本の修正と同様に修正を行った。

3. 平成28年度発表会の開催日、会場

事務局案を踏まえて検討した結果、発表会(1次選考)は、平成28年8月9日(火)、東京理科大学森戸記念館にて開催する。

4. 平成27年度スケジュール

書類選考、1次選考(発表会)は下記の通り開催することに決定した。

- ① 5月5日(土) 書類選考
- ② 8月9日(火) 1次選考(発表会)

以上